

# 編 修 趣 意 書

(教育基本法との対照表)

受理番号	学 校	教 科	種 目	学 年
104-50	高等学校	外国語	論理・表現Ⅲ	
発行者の番号・略称	教科書の記号・番号	教 科 書 名		
177 増進堂	論Ⅲ 709	MAINSTREAM English Logic and Expression Ⅲ		

## 1. 編修の基本方針

教育基本法第一章「教育の目的及び理念」の第一条「教育の目的」・第二条「教育の目標」，および高等学校学習指導要領第2章 第8節「外国語」の第1款「目標」を実現するために，次のことがらが可能になるように編修することを基本とした。

- ①日本人，世界市民として21世紀に生きるうえでのコミュニケーション力（特に発信力・表現力）の基礎を築くこと。
- ②知識・理解にとどまらず，技能の習得・定着を図り，考え表現する力を伸ばすこと。
- ③わかりやすく学習しやすい素材と手順・方法を提供することにより，学習への意欲や英語への興味・関心を高めること。

## 2. 対照表

図書の構成・内容	特に意を用いた点や特色	該当箇所
Lesson 1	「尊敬する人物」をテーマに，正義や責任，努力や他者への愛情，創造性といった観点から，今後社会を生きるうえでの道しるべとなる人物は誰かを発見，発信する内容とした。また，他者のスピーチからも様々な人物についての知識，教養を身に付け，今後の生き方についてインスピレーションを得られるものとした。(第 1,2,3,4 号)	11-13 頁
Lesson 2	「多様な人が共生できる社会」をテーマに，障害者やLGBTQ+を始めとするマイノリティや女性が直面する困難への知識を深め，それらを生み出す社会構造はどのようなもので，どのように形成されてきたか，その構造を転換させ，誰も排除されない社会を作るためにはどのような手立てが必要かを考え，発信させる内容とした。(第 1, 3 号)	14-15 頁
Lesson 3	「日本文化の再発見」をテーマに，普段，何気なく受け入れている日本文化の特異性や海外文化との関連性を検討し，自分たちが生きる日本とはどのような国かを見つめなおす内容とした。また，日本文化の賞賛にとどまるのではなく，海外との比較の中で，日本の文化や風習を批判的にも見つめなおし，よりよい社会を築くための改善点や，将来の可能性についても考えることを狙いとしている。(第 1, 5 号)	16-17 頁
Lesson 4	「私が提起したい問題点」をテーマに，普段は見過ごされている問題をデータや専門家の意見を引用しながら論理的に浮かび上がらせ，聴衆に考えや行動の変容を訴えかける内容とした。また，自分の意見を戦略的にアピールする経験を通して，周囲の環境に働きかける力を培う。(第 1, 3 号)	23-25 頁

Lesson 5	「どうすれば健康でいられるか」をテーマに、全ての活動の基礎となる健康への科学的知識を深めるとともに、自分自身の生活態度について反省や改善を促すものとした。また、健康に関する問題や健康の維持方法を発表する活動の中で、信頼できる情報源からデータを収集する技術を培い、将来に渡って生徒の健康を増進することも狙いとした。(第 1,4 号)	26-27 頁
Lesson 6	「過去、現在、そして未来のデジタル・コミュニケーション」をテーマに、いまや人々の生活にとって欠かせないデジタル・コミュニケーションについて、経年的データや著名人の来歴、意見などから多角的に理解を深めるものとした。また、現在手に入るデータや有識者の意見から将来を論理的に予測し、説明する能力を培う。(第 1,2 号)	28-29 頁
Lesson 7	「学校図書館でのマンガ」をテーマに、日本文化のひとつであるマンガには、娯楽を越えて生徒たちを学問的、精神的に成長させる力があることを発見できる内容とした。また、各生徒が図書館に配置すべきマンガの特徴を考え、ディスカッションの中で意見をまとめるというプロセスを経ることで、自分の意見を理由とともに提案する力や、お互いの意見や価値観を尊重しながら意見をまとめる力を培うことを狙いとした。(第 1,2,5 号)	35-39 頁
Lesson 8	「新入生へのメッセージ」をテーマに、高校 3 年間で教員や友人と培ってきた関係や、勉強や学校行事のために積み重ねてきた努力などを振り返り、その時間のかげがえのなさを生徒たちが確認できる内容とした。また、各生徒が新入生のためのポスターを作るために意見を出し合い、必要な情報を取捨選択する過程で、お互いの意見や価値観を尊重しながら意見をまとめる力を培うことを狙いとした。(第 1,2,3 号)	40-41 頁
Lesson 9	「災害時に外国人が必要な助けは何か」をテーマに、災害時に外国人が直面する困難について幅広く理解を深め、異なる文化的バックグラウンドを持つ人びとへの想像力を培うものとした。また、実際に大規模災害が起きた際に、被災地で外国人にも支援が行きわたるよう、生徒たちが言語的・文化的な橋渡しとなる素養を養うことも狙いとした。(第 1,2,3,5 号)	42-43 頁
Lesson 10	「人はベジタリアンになるべきか」をテーマに、人が健康を維持するために必要な栄養や、畜産が環境に与える影響、倫理的問題への知識を深め、ベジタリアンという生き方について生徒たちに考えさせる内容とした。また、ディベートの枠を超え、生徒たちが菜食の特長を理解し、健康や環境のためにバランスよく生活に取り入れるきっかけになる内容とした。(第 1,4 号)	49-53 頁
Lesson 11	「デジタル教科書は紙の教科書よりもよいか」をテーマに、生徒たちにとって身近なデジタル機器での学習が持つメリットとデメリットへの理解を深めるものとした。また、ディベートを通して、学習に効果的に働く要素や学習を阻害する要素を見つめなおし、自身の学習生活に活かせる内容とした。(第 1,2 号)	54-55 頁
Lesson 12	「サマータイムを導入すべきか否か」をテーマに、いくつかの国で導入されているサマータイムという制度そのものへの理解を深めるとともに、今ある形が当然のものとして捉えられている「時間」という制度が、健康や環境を始め、人々の生活にどれほど大きな影響を及ぼしているかを発見できるような内容とした。(第 1,2,4 号)	56-57 頁

Lesson 13	「世界と国内の食料問題」をテーマに、私たちの命の土台となる食が抱える問題への理解を多角的に深め、身近に語られる日本人の生活態度の変容の必要性だけではなく、科学や技術の発展にも状況を大きく好転させる可能性があることを発見できる内容とした。また、食の問題は世界のあらゆる問題とも深い繋がりがあることを示し、国際社会に生きる市民としての責任感を育むことも狙いとした。(第 1,3,4 号)	63-67 頁
Lesson 14	「死刑制度は廃止すべきか」をテーマに、世界的には廃止に向かう死刑制度について、存廃の両方の立場が持つ課題を分析しながら、日本はどちらの選択を取るべきかを考えさせる内容とした。また、日本における重要な判例を交えることで生徒たちが司法制度に関心を持つきっかけとなる内容にしたほか、統計データの利用についても、その妥当性や信頼性に注意しながら論を展開するよう促した。(第 1,3,4 号)	68-69 頁
Lesson 15	「2030 年までに何ができるか」をテーマに、自分たちの暮らす地域が持つ問題を SDGs の観点から見つめなおすことで、それが単一ではなく、様々な問題が複雑に絡み合って表出したものであり、解決へのアプローチが多様にあることを発見できる内容とした。(第 1,2,3 号)	70-71 頁
Lesson 16	「寓話とことわざ」をテーマに、古くから親しまれてきた日本のことわざが英語ではどのように言い換えられるかを学べるものとした。また、オリジナルの寓話を考える課題を通して、ストーリーがあることわざを表すよう論理的に構成を組み立てる力や、ことわざが効果的に響くような工夫をするなど、高度な表現力を培える内容とした。(第 1,2,5 号)	74-77 頁

### 3. 上記の記載事項以外に特に意を用いた点や特色

- 自主・自立及び共同の精神、自国や外国の文化への理解、他者の尊重、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養育するため、身近な日常生活にとどまらず、学校、地域・社会、世界と幅広い場면을題材として扱い、自らの意見を論理的かつ効果的に発信する力や、他者の意見を尊重し、円滑で実りあるやりとりを行う力を高めることに重点を置いた。
- 豊かな創造性と自分自身の意見を戦略的に表現する技術を養うため、さまざまな形態の資料を活動資料として取り入れた。

# 編 修 趣 意 書

(学習指導要領との対照表、配当授業時数表)

受理番号	学 校	教 科	種 目	学 年
104-50	高等学校	外国語	論理・表現Ⅲ	
発行者の番号・略称	教科書の記号・番号	教 科 書 名		
177 増進堂	論Ⅲ 709	MAINSTREAM English Logic and Expression Ⅲ		

## 1. 編修上特に意を用いた点や特色

### (1) 題材等について

- ①生徒が様々な話題について学ぶことができるように、バランスよく話題の選択をすること。各 Part は 3 レッスン構成となっているが、各 Part の第 1 レッスンでは比較的身近な日常生活に関する話題や、社会問題の中でも日常生活と密接に関わるような内容を選択し、第 2、第 3 レッスンでは学校、地域・社会、世界といったより範囲が広く、複雑な話題が扱われるように配慮した。
- ②さまざまな話題を扱うために必要な語彙・表現を提示すること。第 1 レッソンの Model や第 2、第 3 レッソンの資料には重要表現を多く配置し、文脈の中で自然とそれらを学習できるよう配慮したほか、FOR YOUR USE, FOR MORE USE などの欄を設け、生徒の言語活動を補助できるようにした。
- ③「知る→考える→表現する」という手順を踏まえながら、知識や理解したことを運用できるように持っていくこと。特に、冒頭レッスンでは「知った」ことからは「使う」ことで定着する (intake) という考えに基づき、学習したことを生徒自身が使えるような練習を用意し、考えたり表現したりできるようにしてある。
- ④大きな枠組みとして、まずは音声や題材に関する情報提供を重視する内容から始め、その後、文字や生徒自身の情報収集を重視する活動へつなげていくこと。主として「話すこと」と「書くこと」を目的としている科目であるものの、学習指導要領の「目標」にもあるように、「聞くこと」や「読むこと」と関連させて指導するようにしてある。
- ⑤コミュニケーションをする必然性のある状況設定をし、生徒の学習への動機付けを高めるような活動を用意することで、より積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成すること。「状況」は「場面」に限らず、話したり書いたりする「形式」(プレゼンテーション、ディスカッション等) といったことも含めて配慮してある。
- ⑥最終的にはきちんとした文章を「発表する」「書く」ことを目指すこと。スピーチやプレゼンテーション、ライティングのパートはもちろんのこと、ディスカッションやディベートのパートでも冒頭レッスンにはノート・テイキングや活動をまとめて報告する活動を配置し、その後の第 2、第 3 レッスンでも、活動の一部として自然に「発表する」「書く」ことに取り組めるように工夫した。また、各 Part の最後には「表現するための文法」を GRAMMAR COMPASS で学習・練習できるように構成した。
- ⑦さまざまな生徒や教員に対応できるように、教科書・付属教材等ともに工夫を施すこと。

### (2) 構成等について

- ①全体の構成としては、Part 1~4 では、スピーチ、プレゼンテーション、ディスカッション、ディベートの活動を、Part 5~6 ではエッセイや創造的な英文を書く活動をするというように、主に活動内容の観点からパートを分けた。ただし、各パートはひとつの活動のみに特化しているわけではなく、準備の段階でディスカッションを行う仕組みや活動の内容を文章にまとめる仕組みを取り入れ、英語の運用能力を複合的に培うものとした。また、Part 1~5 の各パートにおいては、身近な話題から徐々に社会・世界を視野に入れたものへと発展していけるよう配慮した。
- ②Part 1~5 のはじめには Review を配置し、レッスンに入る前に各活動の基本的な進め方や留意点を確認できるようにした。また、各レッスンで活動の手引きとしてスムーズに確認できるよう、流れ、準備、工夫など、分かりやすい区分を設けている。
- ③Part 1~5 の冒頭レッスンは、「知った」ことからは「使う」ことで定着する (intake) という考えに基づき、Review で学んだ内容を再確認しながら一連の活動の流れをおさえること、また、さらに一歩進んだテクニックを習得し実践することを目標としたレッスンとして構成した。具体的には、「導入文やリスニング問題、簡単なディスカッションによる導入→活動の Model となる文と、その分析を通して発展的なテクニックを学ぶ活動→ブレインストーミングなど、活動に向けた準備→各 Part の活動」という手順で活動を行い、intake が実現できるように構成した。

各 Part の冒頭レッスンの構成は、具体的には次のとおりである。

○Part 1 (Lesson 1) および Part 2 (Lesson 4)

1) Warm Up: 課のトピックへの導入となるリスニング問題に取り組んだあと、短い資料をもとにした対話活動を行う。

2) Model: 実際のスピーチまたはプレゼンテーションを想定した英文で、課の題材内容を提示している。内容理解を確認できるリスニング問題 TRUE OR FALSE を配置したほか、ページ下部に配置した Organization では、各活動での重要な表現テクニックに該当する箇所をモデル文から探して確認する仕組みとした。また、GRAMMAR は文法項目が使われている箇所を示し、各 Part の最後に配置された GRAMMAR COMPASS と連動する仕組みにした。

3) Speech/Presentation: 活動に向けたブレインストーミングを行ったあと、手順を追ってスピーチまたはプレゼンテーションを作成し、練習し、発表する。

#### ○Part 3 (Lesson 7)

1) Introduction: 課のトピックへの導入となる短い文章を読む。

2) Warm Up: 課のトピックについて理解を深めるリスニング活動を行った後、トピックに関する簡単な対話活動に取り組む。

3) Model: トピックと関連したディスカッションを想定した英文で、課の題材内容を提示している。ディスカッション例の下部に配置された GRAMMAR や右ページに配置された Organization は、Part 1 と同等の仕組みである。また、Comprehension ではノート・テイキングを意識した設問を取り入れたほか、Reporting では Model 文をもとに議論の過程や結論を報告する活動を行い、次のディスカッション活動の下地作りとした。

4) Preparation: Discussion Question の提示、およびディスカッションに向けた準備を行う。

5) Discussion: ディスカッションの手順を示したガイドにしたがってグループで対話を行う。対話をした後は、グループで話し合った内容について短い発表活動を行い、さらに自分の意見を短い英文にまとめる活動を行う。

#### ○Part 4 (Lesson 10)

1) Introduction: 課のトピックへの導入となる短い文章を読む。

2) Warm Up: 「人はみなベジタリアンになるべきか」という命題のディベートについて、モデル英文の前段階となる「立論」部分を読み、問題に解答したあと、それぞれの「立論」に対して適切な質疑応答を選ぶ設問に取り組む。耳で相手の主張を聞き取ってノート・テイキングを行うという、実際のディベートを想定した設問である。

3) Model: Warm Up で聞いたディベートの続きとなるモデル英文で、課の題材内容を提示している。ディベート例の下部に配置された GRAMMAR や右ページに配置された Organization, Comprehension は、Part 1 や Part 3 と同等の仕組みである。また Evaluation は、生徒たちにディベートの審判の視点を持たせることを目的としており、次ページの For Better Debates の活動に向けた下地作りとなっている。

4) For Better Debates: Model 内の肯定派の「反論」と「防御」を再確認させ、どのような内容を追加すればより説得力のある内容となったか、論理展開を考えさせる練習問題に取り組む。

5) Preparation: Proposition の提示、およびディベートに向けた準備を行う。

6) Debate: ディベートの手順を示したガイドにしたがって、グループでディベートを行う。ディベートをした後は、グループで討論した内容を参考に、自分の意見を短い英文にまとめる活動を行う。

#### ○Part 5 (Lesson 13)

1) Introduction: 課のトピックへの導入となる短い文章を読む。

2) Warm Up: 課のトピックについて理解を深めるリスニング活動を行った後、トピックに関する簡単な対話活動に取り組む。

2) Key Text 1 / Key Text 2: トピックの題材について異なる視点から書かれた英文を読み、論点や背景知識を学ぶ。エッセイ内の表現や構成の特徴を側注の Organization に、トピックに関するより詳細な情報をページ下部の REFERENCE に掲載した。GRAMMAR は Part 1 と同等の仕組みである。

3) Preparation: 構成に注意しながらエッセイを完成させる問題に取り組んだあと、ライティングの準備として、トピックに関する情報を集める活動に取り組み、クラスメイトとアイデアを交換する対話活動を行う。

4) Essay Writing: 手順を追ってアウトラインを作成し、エッセイを作成する。作成したエッセイはクラスメイトからフィードバックをもらい、さらによいものとなるよう、加筆修正を行う。

④Part 1～5 の第 2,第 3 レッソンは、各活動のテーマとさまざまな観点に基づく資料を提示し、教室でのディスカッションや、生徒自身の調査活動を軸に活動を進めるレッスンとして構成した。論理・表現 I, II での学習、また Review や冒頭レッスンでの確認を経て、生徒たちは各活動に関する基礎的な技能が十分身につけているものと想定される。したがって、これらのレッスンではトピックに関連した資料や資料の分析・調査のための観点を提示するにとどめ、以下のような狙いを以て構成した。

1) トピックの導入

トピックに関する基本的な情報や、活動の目標（発表テーマや議論で導き出す結論）を理解する。

2) 資料、および資料を読み解く観点を提示

トピックに関する知識を深めるとともに、資料を読み解く観点をヒントにしなが、各事象の背景にある社会構造や歴史的経緯、他の事象に及ぼす影響を考察し、自分の考えをまとめ、ディスカッションを通してクラスメイトと共有する。

3)情報収集活動を行うための観点の提示

教科書内の資料で触れていない観点や情報収集を行ううえでの切り口をヒントとしなが、トピックへの理解をさらに深めるとともに、発表や議論の素材となり得る情報を集める。

4)各活動の簡潔なステップの提示

基本的には **Review** や冒頭レッスンで行った流れを簡潔に再構築したものを確認する。一部、Lesson 8 のポスター作りや Lesson 9 のリーフレット作りでは各目標特有の手順も提示し、活動を補助するようにした。

⑤Part 1 ではスピーチを行う。ここでは尊敬する人物という身近な話題から社会の在り方を問う題材まで幅広く取り上げ、聴衆の興味の引き方、聞き手にとって分かりやすい発表の進め方など、後続のプレゼンテーションにも繋がるテクニックを身に付けることに重点を置いた。

Part 2 ではプレゼンテーションを行う。ここでは特にグラフなどの統計資料が使用しやすいトピックを集め、Part 1 のテクニックも活用しながら、生徒たちがグラフや数値を戦略的に活用する機会を作ることに重点を置いた。

Part 3 ではディスカッションを行う。冒頭レッスンでのガイドライン作りを始め、ポスター作りや防災リーフレット作りなど、グループでひとつの成果物を作ることを目標とする題材を選出した。これらの成果物を作るためには、ただグループで出た意見を並べ立てるのではなく、時には情報や意見の取捨選択や優先順位の決定が必要となるため、相手を尊重しながらもその意見を否定するやりとり、交渉や譲歩、意見の共通点を探してまとめていくやりとりなど、より広範で高度な言語活動が行われることが期待される。

Part 4 ではディベートを行う。冒頭レッスンでは食という身近な話題でありながら、生命倫理や環境、健康など、さまざまな論点が複雑に絡み合ったベジタリアンという題材で丁寧なディベート活動を導入する。その後、第2レッスンでは比較的生徒たちにとって身近な題材、第3レッスンでは再びさまざまな事象が絡み合った社会的な題材と、生徒たちが段階を踏んでディベートに取り組んでいけるよう、配慮して構成した。なお、冒頭レッスンではノート・テイキングや議論のブラッシュアップを行うような活動も設け、生徒たちがディベートに必要なテクニックや観点も確認できるよう、構成した。

Part 5 ではエッセイライティングを行う。ここでは冒頭レッスンでさまざまなエッセイの構成を実例とともに確認しておくことで、第2、第3レッスンでは、各生徒がトピックについて主張したい内容や集めた資料に応じて構成を使い分けられるよう、配慮した。なお、教科書の最終レッスンとなる第3レッスンは、自分たちの住む町に政策提案をするというレッスンの特質上、エッセイライティング前の準備が高度なものになることが予想されたため、グループワークも組み合わせる構成とした。

Part 6 では創造的なライティング活動を行う。寓話とことわざを題材に、ことわざが効果的に響くように構成や表現を工夫した作品作りに取り組む。

⑥英語を聞く力を強化するため、巻末には Part 1～5 の第2、第3レッスンに関連した難易度の高いリスニング問題を Give It a Shot として掲載した。これらのリスニング問題は、各レッスンのトピックに対する理解を深める素材としても活用が可能である。

## 2. 対照表

図書の構成・内容	学習指導要領の内容 第2款 第5論理・表現Ⅲ 2内容, 3内容の取扱い	該当箇所	配当 時数
<u>Review: Speech</u>	2(1)ア(ア,イ) 2(2)ア,イ 2(3)①ア,ウ(イ) 2(3)②ア(ウ),イ(ア,イ,ウ,エ,オ)	8・10 頁	※
<u>Lesson 1</u> Warm Up	2(1)ア(イ) 2(2)ア 2(3)①イ(ア),ウ(ア),②ア(ア),イ(ア,ウ,エ)	11 頁	3
EXPRESSIONS Model	2(1)ア(イ) 2(1)ア(ア,イ) 2(3)②ア(ア,ウ),②イ(ア,イ,ウ,エ,オ)	11, 12 頁 12 頁	
TRUE OR FALSE	2(1)ア(イ)	12 頁	
GRAMMAR	2(1)ア(イ)	12 頁	
Organization Speech	2(1)ア(ア,イ) 2(3)②ア(ウ),イ(ア,イ,ウ,エ,オ) 2(1)ア(ア,イ) 2(2)ア,イ 2(3)①ウ(イ),②ア(ア,イ,ウ),イ(ア,イ,ウ,エ,オ)	12 頁 12 頁 13 頁	
<u>Lesson 2 / 3</u>		(Lesson 2 / 3)	3, 3

Introduction / EXPRESSIONS / 注釈 Reference 調査活動（虫眼鏡マーク） Steps in Making a Speech	2(1)ア(イ) 2(1)ア(イ) 2(2)ア 2(3)①イ(ア),②ア(ア),イ(ア,イ,ウ,エ,オ) 2(1)ア(イ) 2(3)②ア(イ),イ(ウ) 2(1)ア(ア,イ) 2(2)イ 2(3)①ウ(イ),②ア(ア,イ,ウ),イ(ア,イ,ウ,エ,オ)	14,15 / 16,17 頁 14,15 / 16,17 頁 15 / 17 頁 15 / 17 頁	
<u>Grammar Compass</u>	2(1)ア(ア,イ) 2(2)ア 2(3)①エ(ア),②ア(ア,イ),イ(ア,イ,ウ)	18 頁	※
<u>Review: Presentation</u>	2(1)ア(ア,イ) 2(2)ア,イ 2(3)①ア,ウ(イ) 2(3)②ア(ウ),イ(ア,イ,ウ,エ,オ)	20-22 頁	※
<u>Lesson 4</u> Warm Up EXPRESSIONS Model TRUE OR FALSE GRAMMAR Organization Presentation	2(1)ア(イ) 2(2)ア 2(3)①イ(ア),ウ(ア),②ア(ア),イ(ア,イ,ウ,エ,オ) 2(1)ア(イ) 2(1)ア(イ) 2(3)②ア(ア,イ,ウ),②イ(ア,イ,ウ,エ,オ) 2(1)ア(イ) 2(1)ア(イ) 2(1)ア(ア,イ) 2(3)②ア(ウ),イ(ウ,エ) 2(1)ア(ア,イ) 2(2)ア,イ 2(3)①ウ(イ),②ア(ア,イ,ウ),イ(ア,イ,ウ,エ,オ)	23 頁 23,24 頁 24 頁 24 頁 24 頁 24 頁 24 頁 25 頁	3
<u>Lesson 5 / 6</u> Introduction / EXPRESSIONS / 注釈 Reference 調査活動（虫眼鏡マーク） Steps in Making a Presentation	2(1)ア(イ) 2(1)ア(イ) 2(2)ア 2(3)①イ(ア),②ア(ア),イ(ア,イ,ウ,エ,オ) 2(1)ア(イ) 2(3)②ア(イ),イ(ウ) 2(1)ア(ア,イ) 2(2)イ 2(3)①ウ(イ),②ア(ア,イ,ウ),イ(ア,イ,ウ,エ,オ)	(Lesson 5 / 6) 26,27 / 28,29 頁 26,27 / 28,29 頁 27 / 29 頁 27 / 29 頁	3, 3
<u>Grammar Compass</u>	2(1)ア(ア,イ) 2(2)ア 2(3)①エ(ア),②ア(ア,イ),イ(ア,ウ,エ,オ)	30 頁	※
<u>Review: Discussion</u>	2(1)ア(ア,イ) 2(2)ア,イ 2(3)①ア,イ(イ) 2(3)②ア(ウ),イ(ア,イ,ウ,エ,オ)	32-34 頁	※
<u>Lesson 7</u> Introduction / Warm Up EXPRESSIONS / FOR YOUR USE Model GRAMMAR Organization Comprehension Reporting Preparation Discussion	2(1)ア(イ) 2(2)ア 2(3)①イ(ア),②ア(ア),イ(ア,イ,ウ,エ) 2(1)ア(イ) 2(1)ア(ア,イ) 2(3)②ア(ア,イ,ウ),②イ(ア,イ,ウ,エ,オ) 2(1)ア(イ) 2(1)ア(ア,イ) 2(3)②ア(ウ),イ(ア,イ,ウ,エ,オ) 2(1)ア(ア,イ) 2(3)②ア(ウ),イ(ウ) 2(1)ア(ア,イ) 2(2)イ 2(3)①ウ(ア),②ア(イ,ウ),イ(ウ,エ) 2(1)ア(ア,イ) 2(2)ア 2(3)②ア(イ),イ(イ,ウ,エ) 2(1)ア(ア,イ) 2(2)ア,イ 2(3)①イ(イ),ウ(ア),エ(ア) 2(3)②ア(ア,イ,ウ),イ(ア,イ,ウ,エ,オ)	35 頁 35,36,39 頁 36 頁 36 頁 37 頁 37 頁 37 頁 38 頁 39 頁	5
<u>Lesson 8.9</u> Introduction / EXPRESSIONS / 注釈 Reference 調査活動（虫眼鏡マーク） Steps in Making a Poster [a Leaflet]	2(1)ア(イ) 2(1)ア(イ) 2(2)ア 2(3)①イ(ア),②ア(ア),イ(ア,イ,ウ,エ,オ) 2(1)ア(イ) 2(3)②ア(イ),イ(ウ) 2(1)ア(ア,イ) 2(2)イ 2(3)①イ(イ),ウ(イ) 2(3)②ア(ア,イ,ウ),イ(ア,イ,ウ,エ,オ)	(Lesson 8/9) 40,41 / 42,43 頁 40,41 / 42,43 頁 41 / 43 頁 41 / 43 頁	4, 4
<u>Grammar Compass</u>	2(1)ア(ア,イ) 2(2)ア 2(3)①イ(ア),②ア(ア),イ(ア,イ,ウ,エ)	44 頁	※
<u>Review: Debate</u>	2(1)ア(ア,イ) 2(2)ア,イ 2(3)①ア,イ(イ) 2(3)②ア(ウ),イ(ア,ウ,エ)	46-48 頁	※

<b>Lesson 10</b> Introduction / Warm Up EXPRESSIONS Model GRAMMAR Organization Comprehension Evaluation For Better Debates Preparation Debate	2(1)ア(ア,イ) ②ア(ア,イ,ウ),イ(ア,ウ,エ,オ) 2(1)ア(イ) 2(1)ア(ア,イ) 2(3)②ア(ア,イ,ウ),②イ(ア,ウ,エ,オ) 2(1)ア(イ) 2(1)ア(ア,イ) 2(3)②ア(ウ),イ(ア,ウ,エ,オ) 2(1)ア(ア,イ) 2(3)②ア(ウ),イ(ウ) 2(1)ア(ア) 2(1)ア(ア,イ) 2(3)②ア(ウ),イ(ア,ウ,エ) 2(1)ア(ア,イ) 2(2)ア 2(3)②ア(イ),イ(ウ,エ) 2(1)ア(ア,イ) 2(2)ア,イ 2(3)①イ(イ),エ(ア) 2(3)②ア(ア,イ,ウ),イ(ア,ウ,エ,オ)	49 頁 49,50,52 頁 50,51 頁 50 頁 51 頁 51 頁 51 頁 52 頁 52 頁 53 頁	5
<b>Lesson 11,12</b> Introduction / EXPRESSIONS / 注釈 Reference 調査活動 (虫眼鏡マーク) Steps in Carrying Out a Debate	2(1)ア(イ) 2(1)ア(イ) 2(2)ア 2(3)①イ(ア),②ア(ア,イ),イ(ア,イ,ウ,エ,オ) 2(1)ア(イ) 2(3)②ア(イ),イ(ウ) 2(1)ア(ア,イ) 2(2)イ 2(3)①イ(イ) 2(3)②ア(ア,イ,ウ),イ(ア,ウ,エ,オ)	(Lesson 11/12) 54,55 / 56,57 頁 54,55 / 56,57 頁 55 / 57 頁 55 / 57 頁	4, 4
<b>Grammar Compass</b>	2(1)ア(ア,イ) 2(2)ア 2(3)①エ(ア),②ア(ア,イ,ウ),イ(ア,イ,ウ,エ,オ)	58 頁	※
<b>Review: Essay Writing</b>	2(1)ア(ア,イ) 2(2)ア,イ 2(3)①ア,エ(イ) 2(3)②ア(ウ),イ(ア,ウ,エ)	60-62 頁	※
<b>Lesson 13</b> Introduction / Warm Up EXPRESSIONS / FOR YOUR USE Key Text 1 / Key Text 2 GRAMMAR Organization REFERENCE Preparation Essay Writing	2(1)ア(イ) 2(2)ア 2(3)①イ(ア),②ア(ア,イ),イ(ア,イ,ウ,エ) 2(1)ア(イ) 2(1)ア(ア,イ) 2(3)②ア(ア,イ,ウ),②イ(ア,イ,ウ,エ,オ) 2(1)ア(イ) 2(1)ア(ア,イ) 2(3)②ア(ウ),イ(ア,イ,ウ,エ) 2(1)ア(イ) 2(3)②ア(イ),イ(ウ) 2(1)ア(ア,イ) 2(2)イ 2(3)①イ(ア),エ(ア) 2(3)②ア(ア,イ,ウ),イ(ア,ウ,エ,オ) 2(1)ア(ア,イ) 2(2)イ 2(3)①イ(ア),エ(イ) 2(3)②ア(ア,イ,ウ),イ(ア,ウ,エ,オ)	63 頁 63-66 頁 64-65 頁 64 頁 64,65 頁 64,65 頁 66 頁 67 頁	5
<b>Lesson 14,15</b> Introduction / EXPRESSIONS / 注釈 Reference 調査活動 (虫眼鏡マーク) <Lesson 8> <Lesson 9> Steps in Writing an Essay	2(1)ア(イ) 2(1)ア(イ) 2(2)ア 2(3)①イ(ア),②ア(ア,イ),イ(ア,イ,ウ,エ,オ) 2(1)ア(イ) 2(3)②ア(イ),イ(ウ) 2(1)ア(イ) 2(3)①イ(ア),②ア(イ),イ(ア,イ,ウ,エ,オ) 2(1)ア(ア,イ) 2(2)イ 2(3)①ウ(イ) 2(3)②ア(ア,イ,ウ),イ(ア,イ,ウ,エ,オ)	(Lesson 8/9) 68,69 / 70,71 頁 68,69 / 70,71 頁 69 頁 71 頁 69 / 71 頁	4, 4
<b>Grammar Compass</b>	2(1)ア(ア,イ) 2(2)ア 2(3)①エ(ア),②ア(ア,イ,ウ),イ(ア,イ,ウ,エ,オ)	72 頁	※
<b>Lesson 16</b> Step 1 / Step 2 / Step 3 / Step 5 Step 4	2(1)ア(ア,イ) 2(3)②ア(ア,ウ),イ(ウ,エ,オ) 2(1)ア(ア,イ) 2(2)ア,イ 2(3)①エ(イ),②ア(ア,ウ),イ(ウ,エ,オ)	74-77 頁 76 頁	3
<b>Give It a Shot</b>	2(1)ア(イ) 2(3)②ア(ア),イ(ア,イ,ウ,エ,オ)	80-81 頁	※
		計	60

<注>\*総授業数は、週2時間、年間約30週として計算し、60時間とした。

\*各Part後のコラム、Speaking & Listening Project、Give It a Shotについては各学校での弾力的運用を想定している。(※)

